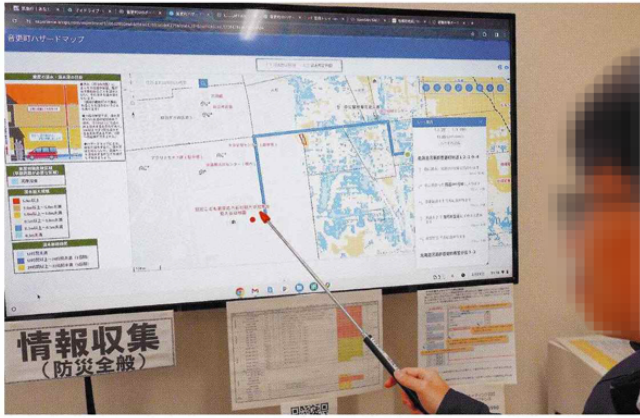




年 組 名前

道新ワークシート

スマホで避難所へ 最短経路案内も



ハザードマップ進むウェブ化 管内 6市町作成、2町新年度に

十勝管内でWEB（ウェブ）版のハザードマップを作成する自治体が増えている。6市町が作成済みで、2町が2024年度中に作る計画。住民は自分の位置情報を表示することができ、自治体側は災害時に避難所などの情報を頻繁に更新できるなどの利点がある。自主防災訓練などでの活用や観光客の利用を想定しており、関係機関は住民らの防災意識の向上に役立てたい考えだ。

北海道新聞の調べでは、帯広市と浦幌、豊頃、広尾、芽室、音更町が実際に運用しており、自治体のホームページに掲載している。新得町は4月に、本別町は24年度中に作成し、池田、上士幌両町は25年度以降に検討する。

公表済みの6市町は国や道の交付金を使い、大手地図センター（福岡県）や北海道地図（旭川）などに作成を委託し、導入した。

現在地から避難所までの最短経路が分かるウェブ版のハザードマップ＝音更町

音更町が2月22日に公表したWEB版ハザードマップは、スマートフォン経由だと自分の現在地が確認でき、指定避難所の場所をタップすると最短経路が示される機能をつけた。観光客など土地勘がない人も災害に備えることができる。

音更町危機対策課は「町内会などの自主避難訓練の時に気軽に使ってもらえる。防災意識の向上に役立ててほしい」としている。

自宅や職場付近など特定の地域に絞った上で洪水、津波、土砂災害の危険域を表示して印刷し、自分専用のハザードマップにすることもできる。

帯広開発建設部によると、WEB版ハザードマップは帯広市の導入を皮切りに管内で広がり始めた。同市は英語表示もあり、大きな河川だけでなく中小河川の浸水深も示している。

同開発治水課は、自治体が独自に整備する利点について「地域に即したきめ細かい防災情報を提示できる」と説明している。

（関山大樹）

2024年3月2日（月） 朝刊 帯広・十勝版 15ページ（記事は再編集しています）

- ① 音更町が公表した WEB ハザードマップは、どのような機能がついていますか。また、それによってどんなメリットがありますか。
- ② あなたの住む地域には、洪水、津波、土砂災害、地震などどのような自然災害の危険性が高いと思われますか。（可能であればインターネットで自分の地域のハザードマップを調べてみましょう。）また、そのために自分ができる対策はどんなことでしょうか。

予想される災害【
対策【